

交通死亡事故危険認知速度 (平成26年6月末)

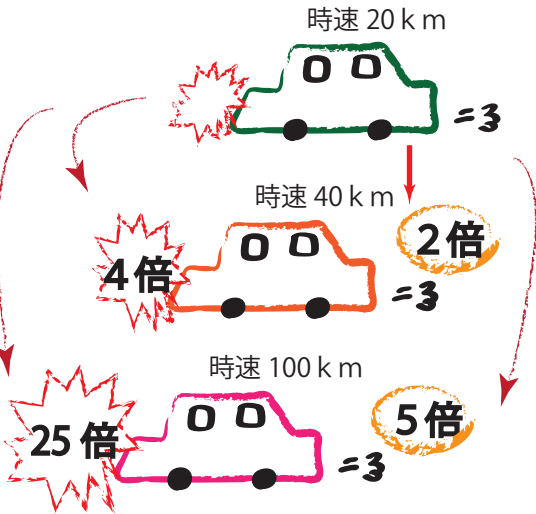
※高速道路の事故、一般道での停止中、調査不能は対象外

事故類型	事故件数	危険認知速度 (平均 km)
人対車両	10件	43.0 km
車両相互	11件	40.9 km
車両単独	10件	69.0 km

危険認知速度とは、事故直前の速度のことで、交通死亡事故の危険認知速度は、平均で50 kmを越えています。
速度を落とすことが命を守ることにつながります。

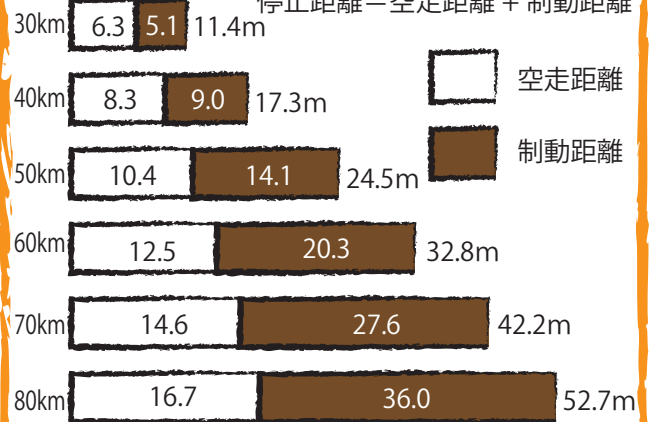
衝撃力と速度

速度が2倍になると衝突の衝撃力は4倍に時速40 kmで衝突する衝撃力は時速20 kmの4倍にもなるのです。



停止距離

停止距離 = 空走距離 + 制動距離

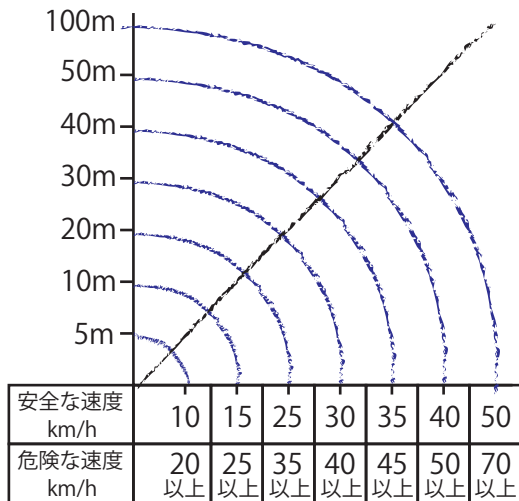


○空走距離を反応時間を0.75秒として、乾いたアスファルト舗装道路 (摩擦係数=0.7) での停止距離。

雨天の場合は、この長さの1.5倍以上になる。
※空走距離とは、車両の運転者が停止の必要を感じたときから、ブレーキ操作の開始を経て実際にブレーキが利き始めるまでに走行した距離。

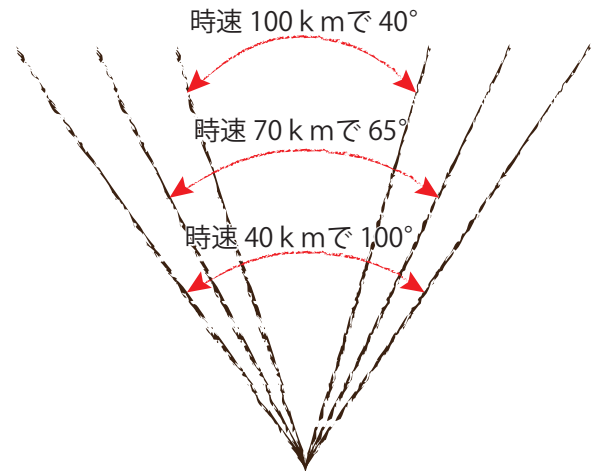
カーブと安全速度

カーブでは車を外に押し出そうとする遠心力が働きます。速度を出しすぎると、車が道路からはみ出したり、スピンして方向性を失ってしまう危険があります。



動体視野

車の運転において、速度が速くなるにつれて、運転者の視野もどんどん狭くなっていきます。速度を落として、安全運転に努めましょう。



「ゆっくり はしれば あなたを まもる」

クルマは便利な乗り物ですが、ちょっとした油断や不注意で、重大な交通事故を引き起こしてしまいます。無理をせず、「ゆとり」をもって安全運転を心掛けましょう。 "あなたのまちのひとをまもろう" ~スピードダウンプロジェクトおかやま~

